

ワット・ビット・コネクトフォーラム

DC を核とした地域の活性化

- 医療でのAI活用に向けて -

株式会社ディー・エヌ・エー

グループエグゼクティブ / メディカル事業副本部長

株式会社アルム

取締役副社長COO兼CTO

菅原 賢太



:DeNA

Shaping Healthcare,

Challenge for Tomorrow

わたしたちはICTの力で医療の格差・ミスマッチをなくし、全ての
の人に公平な医療福祉を実現することを目指しています。

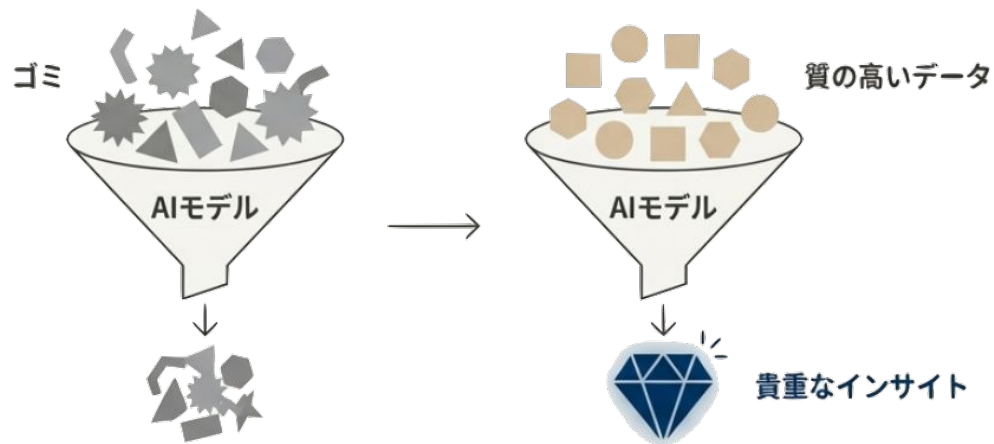
Allm

SHAPING
HEALTHCARE



AI の活用に向けては、アルゴリズム以上に「データ」が重要

“Garbage In, Garbage Out” (GIGO)



価値あるデータを集積できるかが勝負の分かれ目

医療における「質の高いデータ」とは



構造化 (Structured)



数値や標準コードで整理され、
機械判読可能な状態のデータ。



ラベル付き (Annotated)



専門医による正確な診断情報（正解
ラベル）が付与されていること。



マルチモーダル (Multimodal)

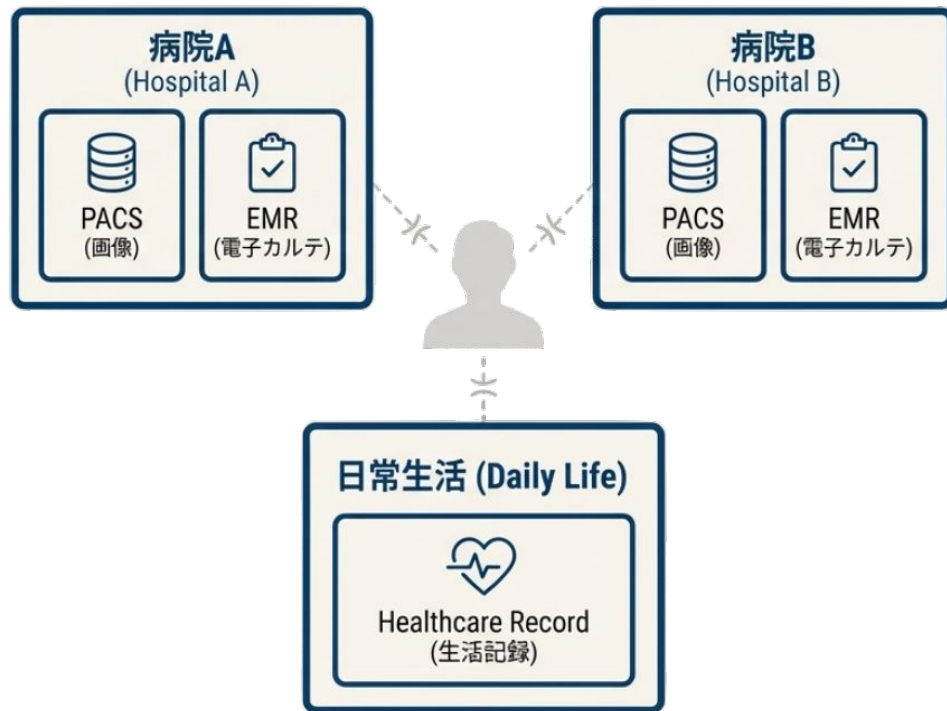
画像データ(DICOM)と、診療情報
(FHIR)等の背景情報が高度に紐付いて
いること。



時系列 (Longitudinal)

単発の「点」ではなく、
患者の人生を「線」として追える
長期的なデータ。

医療データの「分断」という現実



データのサイロ化 (Data Silos)

「医療記録」と「生活記録」の分断、さらに院内でも「PACS（画像）」と「EMR（電子カルテ）」の分断

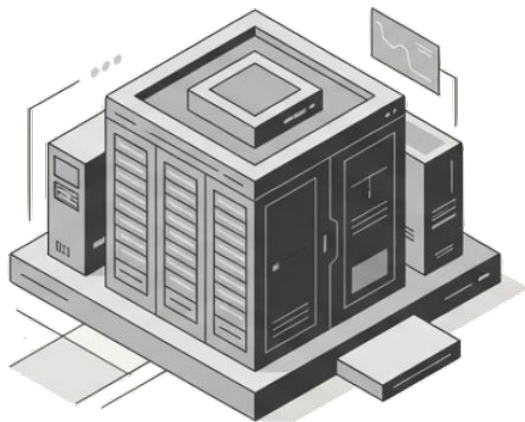
患者ジャーニーの欠落

病院ごとの断片的なデータしか存在せず、患者を中心とした全体像が見えない

標準化と連携の壁

特に大容量のDICOMデータは、インフラの制約により外部連携のハードルが極めて高いのが現状

データを蓄積する環境が整備されれば十分なのか？



「箱」(The Vessel)

全国医療情報プラットフォーム



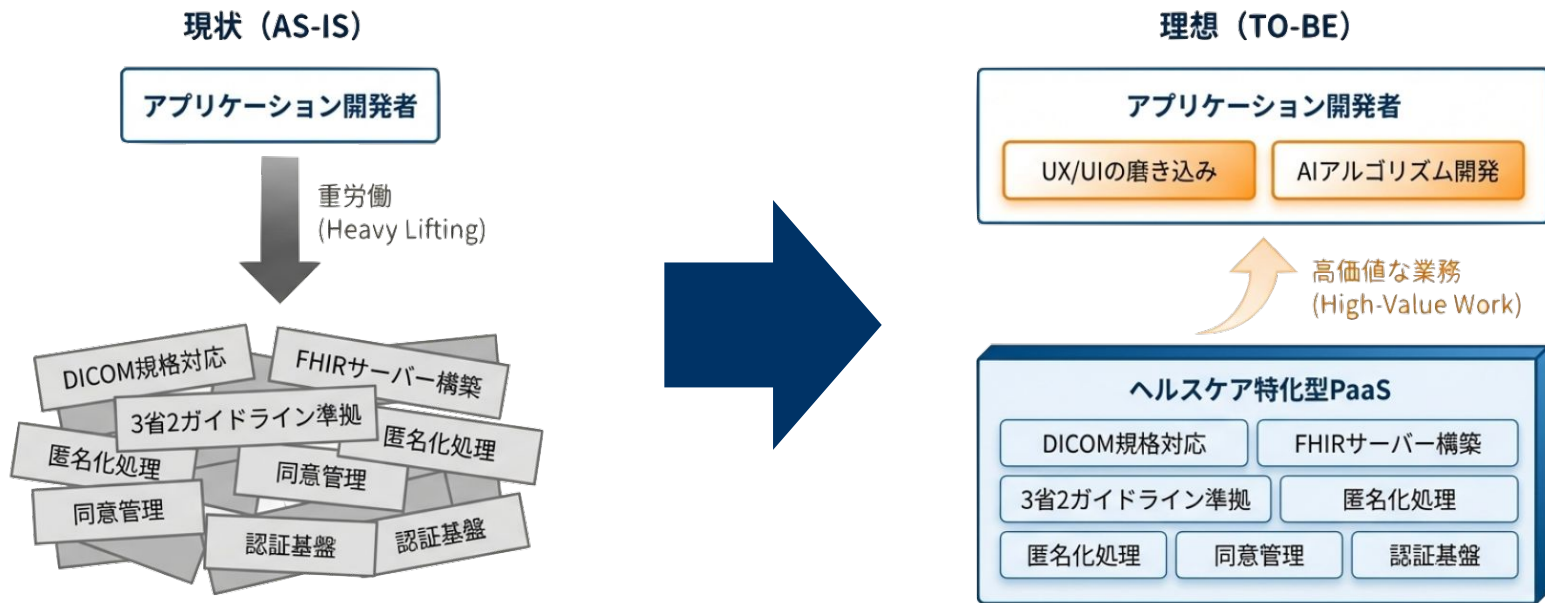
優れたUXが、
生きたデータを
基盤に流し込む

「魂」(The Soul)

患者・医療者が日常的に使うサービス

データ基盤があっても、使われるサービスがなければデータは流れない
重要なのは、基盤の上で動く、使いやすい「上位サービス」をセットで考えること

「価値創出」に集中していくためには



Managed AI & Data Platform

Medical Compliance

High-Speed Network

サービス開発がUX / UI とサービス価値の創出に専念できる環境が必要

地域医療の未来を創出していくためには



インフラが「データ」と「開発」の複雑性を吸収することで
日本の医療サービスは飛躍的に進化する可能性も

一人ひとりに 想像を超えるDelightを

:DeNA